

# 「素晴らしいキリスト・イエス」

## ピリピ1：1

堀田修一 21・9・5

ピリピ人への手紙＝著者：パウロ。1：1。執筆場所：獄中（1：7，13，14）。ローマ。執筆年代：AD61年頃。執筆事情：ピリピ教会は、パウロの伝道を経済的に援助していたが（4：16）、パウロがローマに捕えられていると聞き、エパフロディトに贈り物を持たせて、パウロを慰問するために派遣した（4：18）。ところがエパフロディトは着いてから重病になった（2：27）。パウロは彼が回復した時、ピリピに送り返すにあたり、感謝の手紙を彼に託した。また、ピリピ教会の会員同志の対立（2：3，4。4：2）、ユダヤ主義者（主への信仰による救いではなく律法による救いを強調する）の危険等に警告する必要があった。

### I 「キリスト・イエス」：1。

1. 「キリスト」＝原語の意：「油注がれた者」。個人名ではなく職務。旧約時代、油（オリーブ油）を注がれて任命されたのは→①祭司（出29：7）、②王（Iサム10：1）、③預言者（I列19：16）。主イエスこそ、真の油（御聖霊）注がれ神に任命された真の大祭司（仲保者、とりなし手、ヘブル6：20）・真の王（「王の王、主の主」黙19：16）・モーセが預言していた真の預言者。人間の預言者ではなく「神のことば」（黙19：13）であられる神ご自身（「モーセはこう言いました。『神である主は、あなたがたのために、私のようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中からお立てになる』使徒3：22」）。「キリスト」は、ヘブル語では「メシヤ」、待望の救い主。救い主を心から感謝します！2. 「イエス」＝原語の意：「主は救い」。救い主に名づけられた名（マタイ1：21）。

### II キリスト・イエスの「しもべである」（良い主人のしもべは幸せ）→

1. 原語：奴隷の意。パウロも私達も、真の救い主、主、御主人に救っていただくまでは、悪魔、罪、死、地獄に縛られた奴隷だった。そして神は、それらから救い出し解放し、真の「主」（原語：キュリオスの意＝主人、所有者、主権者である神、旧約聖書の「ヤハウエ」である神）である御子の御支配の中に移して下さった。感謝します。
2. ある主人、縛られているものから解放されるだけでは、真の解決にはならない。なぜなら、また別のものや元のものが主人となり、縛られるから。※真の解放＝〇〇「から」解放され、〇〇「に、へ」結びつく恵み。罪から解放され→真の素晴らしいご主人（キリスト）にしっかり結びつく＝最高の幸い、恵み。主は、私達が主を信じる前の主人（罪、悪魔、死、世）より強く、愛と正しさに満ちた素晴らしいご主人。再び以前の主人が私達を支配しようとする時、力あるご主人である主は、拗り頼む私達を守って下さる。

- ①「罪（神にそむく悪、神から離れた自己中心）を行っている者はみな、罪の奴隷です」（ヨハネ8：34）→「もし子（主イエス）があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです」（8：36）。

②私達は悪魔に支配されていた。しかし神は私達を「サタンの支配から神に立ち返らせ」（使徒26：18）て下さった。悪魔（サタン＝敵対者の意）の支配から解放されているので私達は、神の武具（みことば・御聖霊・祈り合う結束）を身に着けて悪魔と戦える。聖霊なる神も助けて下さる。

③死の奴隷から解放し、よみがえりの命、永遠の命を与えて下さる。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです（天で神と共に永遠に生きる）」（ヨハネ11：25）。

④人の目、人の評価、世間体、体裁、人との比較、世の価値観の奴隷から主は私達を解放し、主のしもべとして、主の目、主の御前に生きる者へと変え続けて下さる。主のしもべの自己価値観、アイデンティティ（本質、主体性）の土台→「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」（イザヤ43：4）。「彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いに比較し合ったりしていますが、愚かなことです」（Ⅱコリント10：12）。ある人と自分を比較する必要はない。神は、一人一人に良い点、賜物を与えておられる。「私にとっては、あなたがたによる判定…は、非常に小さなことです。…私をさばく方は主です。ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても先走ったさばき（最終判定）をしてはいけません。主は、やみの中に隠れた事も明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。そのとき、神から各人に対する称賛が届くのです」（Ⅰコリント4：3-5）。「もし私がいまなお人の歡心を買おうとするようなら、私はキリストのしもべとは言えません」（ガラテヤ1：10）。人の評価を気にし過ぎる事なく、心を見て下さる神を喜ばせるように歩みましょう。

⑤主は、御自身の血という代価を払って永遠の滅びの奴隷である私達を主のものとして贖って（＝永遠の滅びから買い戻して神のものとした）下さった。それゆえ私達の救い主、贖い主（買い戻し主）、所有者は神、主。「あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを知らないのですか。あなたがたは、代価（主の十字架の血、命）を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光（御性質、神の素晴らしさ）を現わしなさい」（Ⅰコリ6：19, 20）。

### Ⅲ「パウロとテモテ（パウロの協力者。主の働き人には良き協力者が必要）から」：1。

1. パウロは主に救われる前は→「私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした」（Ⅰテモテ1：13）。主は、そのようなパウロを救い（使徒9章）、神と人々を愛し、主を宣べ伝え、主の教会を建て上げる主のしもべに変えられた。そして主は、私達をも救い、主の姿に変え続けて下さっている。私達は、主の偉大な救い、主の一つ一つの恵みを覚え心から感謝し、家族や人々の救いの為に祈り、愛を示し主を伝えたい。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」使徒16：31。人々の救いの為に祈る事をあきらめようとする時、次の御言葉を覚えたい→「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」ルカ18：1。「だれが救われることができるでしょう。」イエスは…言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできるのです」マタイ19：25, 26。言葉だけではなく、日々祈りつつ、主から愛をいただいて、家族、知人、友人に愛を示すことができ、御聖霊が、人々に主を求める心を与えて下さいますように。

2. パウロの手紙の初めに、パウロの同労者の名がある→「パウロとテモテから」ピリピ1：1。  
「パウロと、兄弟ソステネから」Ⅰコリント1：1。「パウロと、兄弟テモテから」Ⅱコリント1：1。有能な働き人であるパウロも、良き同労者と共に共同牧会をした。この御言葉に新しい発見がありました。私は、最近、改めて、この共同牧会の恵みを感じている。伝道師ご夫妻は、若者に寄り添い、伝道牧会をされ、私と妻は、大人の方々の相談を受け、皆さんのお祈りの支えの中で伝道牧会をさせていただいています。「パウロと、私とともにいるすべての兄弟たちから」ガラテヤ1：1→教会の皆さんも、牧会者の為に祈り支えてくださり、導かれた方々に伝道され、お互いに励まし合い相互牧会をして下さる恵みを感謝します。教会のお互いが祈り合い愛し合い、素晴らしいイエス・キリストを伝えて行きましょう。
  
3. イエス様は、十二弟子を人々の救いの為に遣わされる時、「二人ずつ遣わし」（マルコ6：7）とある。共同牧会は、主が模範を残された方法。セルも世話人と補佐が与えられている事は恵み。互いに祈り、支え合い「宣教と成長」の使命を果たしたい。「互いの重荷を負い合いなさい」ガラテヤ6：2。